

よい豚のもとをたどればよい種豚

国産純粋種豚改良協議会だより



豚もヒトも
疾病・暑熱対策しっかり!!

第 12 号 2020. 8. 3 発行

暑中お見舞い申し上げます。国内で豚熱陽性野性いのししの発見もおさまらず、近隣諸国ではアフリカ豚熱の再発、豚を介する新型インフルエンザ問題に、自然災害、新型コロナウイルスの感染状況がなかなか良くなりません等、豚だけでなくヒトを取りまく状況も今まで経験のない状況が続いてしまっています。豚だけでなく、ヒトもしっかりと環境を整え、また可能な手段で情報交換も積極的に行い、防疫に努めましょう。

飼養衛生管理基準(豚・いのしし) ガイドブックができました

今年改正された飼養衛生管理基準(豚・いのしし)について、ガイドブックができました。ガイドブックは、農林水産省ホームページにてPDFで公表されているほか、養豚生産者の皆さまには地元の家畜保健衛生所を通じて配布される予定です。

(参考)農水省ホームページ

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_shiyou/index.html

令和2年度 国産純粋種豚改良協議会 総会について

8月～9月開催予定の令和2年度 国産純粋種豚改良協議会 総会ですが、豚熱の国内発生状況に加えてヒトの新型コロナウイルスの感染状況の増加や、その対策等が不安定のため、現在開催日、開催方法について検討中です。詳細決まりましたら改めて御連絡致します。

国産純粋種豚改良協議会 公式ホームページ稼働!!

協議会のメイン事業のひとつである会員間の種豚交流にもお役立て下さい。

このホームページに掲載する会員・オブザーバーの皆様からの掲載希望情報・御意見・御要望や『自慢の我が子(豚) 🍀』の写真を大募集中です。データを事務局まで是非お送りください。お待ちしております。(E-Mail:n.yuasa@pig-pins.com 湯浅まで)

国産純粋種豚改良協議会の現在の会員数は、生産者会員が23名、団体及び試験研究機関会員が当協会含め15名です。オブザーバー会員は5名となっております。正会員への変更手続き、新規入会をお待ちしています!!

淋種豚場の種豚 自衛隊ヘリコプターで救出

国産純粋種豚改良協議会会員で、7月4日の豪雨で一部豚と豚舎が流される被害に遭われた淋さん。9日に御本人からお電話頂き御家族共に無事でいらっしゃる事が分かり、ひとまず安心いたしました。しかし、淋さんがその技術と年月を積み重ねて生み出した種豚や、その種豚から生産された個体60頭近くが流されたり土砂に埋まってしまいました。淋さんは豪雨被害後、近隣の道路の多くが通行止めになっているにもかかわらず、2時間近くかけて生き残った豚の餌を取りに行ったりされていましたが、このままではきちんと飼養できないと考え、熊本県養豚協会・熊本県などに相談。その結果、自衛隊が協力してくれることになり、今回ヘリコプターによる種豚等の救出が行われました。

種豚は、今日明日というスパンで完成するものではありません。時間をかけ、血統、検定、餌を含む飼養管理と種豚生産者の技術により、やっと完成となった大切な『遺伝資源』です。また淋さんは現在、我が国において豚熱ワクチン非接種地域の国産純粋種豚生産者でもあり、種豚配布だけでなく、精液供給も積極的に行っておられました。我が国において非常に重要な存在の国産純粋種豚生産者が被害に遭ってしまい、大切な『遺伝資源』が一部失われてしまったことは、我が国の養豚産業にとって大きな損害であります。

私達は今こそ、国産純粋種豚が遺伝資源であり、代替えの利かない非常に重要なものであることの再認識と、災害・疾病時だけでなく国際問題などによる海外からの導入が困難になることも想定し、国産純粋種豚の維持管理と生産体制について具体的な方策を検討し実行に移す時だと思えます。

そのためにも国産純粋種豚改良協議会のネットワークを拡大し、テーブルミートを生産する肉豚生産者が常に安定生産に取り組むことができ、国民に良質なたんぱく源を提供できるよう頑張りたいと思います。

孤立の種豚ヘリで救出 熊本・球磨村

2020年07月17日

地域

いいね! 340 ツイート LINEで送る B! 1

自衛隊や熊本県は16日、同県球磨村の淋(そそぎ)種豚場に豪雨後も取り残されていた豚27頭を、ヘリコプターを使って助け出した。救出には6時間かかったが、全頭が無事だった。自衛隊によるとヘリコプターによる豚の救助は初めてという。

“作戦”には陸上自衛隊第8飛行隊の他、県や球磨村の畜産担当者ら約30人が参加。まず、鎮静剤を打って豚を落ち着かせた。その後、穀物などを運ぶフレコンバッグに1頭ずつ入れ、ヘリコプターでつり上げ、移動させた。豚の平均体重は約100キロあるため、慎重に作業した。

例のない救助活動に県畜産課の担当者は「貴重な種豚を救えて良かった。自衛隊に感謝したい」と話した。助かった豚は種豚場の別の豚舎で一時的に過ごす。熊本県養豚協会が引き取り先を探している。

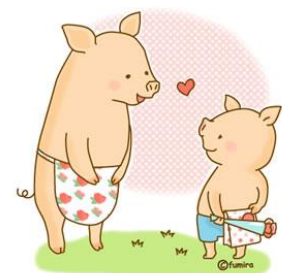
淋種豚場は国内有数の種豚農場。4日の豪雨で豚舎と豚の一部が流された。国道219号と種豚場を結ぶ約200メートルの道路は損壊した。車は通れず、孤立状態になっていた。県は豚を守ろうと自衛隊に協力を要請。最初は道路の復旧を考えたものの難しいことが分かり、ヘリコプターを使った。



自衛隊や熊本県による豚の救助活動（16日、熊本県球磨村で＝県提供）

今回の熊本県他九州地方の豪雨災害で被害に遭われた皆様には心からお見舞い申し上げます。

まだ全国あちこちで大雨の被害も続いているようです。何かお困りのことなどございましたら、事務局まで御相談下さい。会員の皆様のお力をお借りしながら全力で対応させていただきます。



申し訳ありません!!



引き続きもう少しお待ちください・・・

～お詫び・国産純粋種豚改良協議会専用データ管理システム 改修について～

今回の総会でもご報告致しましたが、協議会専用の遺伝的能力評価を抽出するプログラムに一部不具合等が有ることが判明し、現在その改修及び構築の作業を行っております。

こちらの作業が終わるまで、協議会内の遺伝的能力評価及びランキングの公表ができない状態となっており、皆様には大変なご迷惑をおかけしております。

しかし、皆様のデータについては引き続き受け付けていますので、是非最新の未報告データについては書式にてご提出もしくはご入力の方、よろしくお願いいたします。

只今、**最終段階の確認作業**を進めております。正常稼働まで、もうしばらくお時間を頂きたく、何卒ご了承のほどよろしくお願いいたします。

**中国及び
ベトナムほか東南アジアと朝鮮半島に拡散した
アフリカ豚熱(ASF)と
東海から関東・北陸・沖縄地域まで広がっている
豚熱(CSF)の防疫強化を！！**

ASF は非常に厄介な病気で、国内への侵入は全力を挙げて阻止する
必要があります。また、CSF の拡散防止のため衛生対策を徹底しましょう

ASF ウイルスは中国及び東南アジア・朝鮮半島と拡散しており、いつ日本に侵入してもおかしくない状況です。国に対し、水際防疫の強化を要請していますが、国内養豚農場では防疫レベルを最高レベルに引き上げ、防疫強化をすぐに実施し国内への侵入を全力で阻止しましょう。

また、感染が広がっている CSF についても養豚経営の存続にも関わる疾病です。これ以上拡散しないよう農場の衛生対策を今一度確認いただき侵入防止に努めましょう。

『種豚・精液、肥育もと豚等の 導入・販売でお困りの生産者の皆様へ』

相談窓口を開設しました

国内で発生しております CSF 対策として昨年 10 月 25 日からワクチン接種推奨地域においてワクチン接種が開始されました。

これにより、ワクチン接種した種豚等は非接種地域への移動が出来なくなり、この影響で従来の取引先から種豚・精液、肥育もと豚等の導入・販売が出来ずに困っているという相談が多数寄せられています。

JPPA では、国産豚肉生産への影響を少しでも緩和するため、種豚・精液、肥育もと豚等の導入・販売に関してのご要望、ご相談をお受けし、可能な限り対応して参りますので、情報をお寄せいただきますよう、ご協力のほどよろしくお願い致します。

なお、頂いた情報は個人名等を除いた形で他団体等とも共有し、効果的なマッチングを図っていきたいと考えています。

つきましては、種豚・精液、肥育もと豚等のマッチング用情報提供用紙を作成しておりますので、事務局までご連絡ください。

また、現状の顧客以外に配布可能な豚等がございましたら、この取組の一助となりますので、事務局まで情報をお寄せいただきますようよろしくお願いいたします。（情報提供用紙は JPPA ホームページでも提供しています。）

●お問い合わせ等 窓口：国産純粋種豚改良協議会 又は
（一社）日本養豚協会 改良部



国産純粋種豚改良協議会 銘柄豚認定 始動します!!

第3回 国産純粋種豚改良協議会 通常総会において銘柄豚認定に関する規則が承認された事を受け、いよいよ国産純粋種豚改良協議会の銘柄豚認定が始動します。認定委員の皆様には今後、認定の詳細や申請書式などの作成を行って頂きます。少しでも早く本活動に着手できるよう、事務局も頑張りますので認定委員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

また、既に銘柄豚として販売されている方のその認定基準事例やご意見もお待ちしています。どしどし事務局まで送ってください!!

（新型コロナウイルス感染拡大の影響でなかなか打ち合わせもままならない状況ですが、今年度中に基準だけでも制定できればと事務局は思っております・・・）



事務局からのお知らせ

「国産純粋種豚改良協議会」は
平成 28 年 3 月 31 日、オールジャパンでの種豚改良を
目指して発足しました。只今、会員絶賛募集中です!!

★令和 2 年度 種豚導入補助事業 ご案内

事務局である一般社団法人 日本養豚協会では令和 2 年度も種豚導入補助事業の事業実施主体となりました。国産純粋種豚の能力底上げが目標の事業です。令和元年度も同様の事業があり、会員及びオブザーバーの方で事業参加されて、積極的に改良のための導入を行って頂きました。本事業は単年度事業ですが、平成 26 年度から

続いている事業で、生産者間血縁構築にも有効に活用されています。せっかくの補助事業です。協議会の目標達成の為に是非、有効活用しましょう。お問い合わせは事務局の湯浅までお願いします。

★協議会内部での種豚交流について

改良のスピードアップの、ひとつの指標となる遺伝的能力評価精度向上を図るためには、協議会員間での血縁構築が重要となってきます。是非、会員間で種豚交流を実施しましょう。御連絡いただければ会員にお知らせいたしますので事務局までお願いします。是非、公式ホームページ・本日よりもご活用ください!!

★会員、絶賛募集中!!

より多くの種豚生産者に参加していただくことで、国産純粋種豚改良協議会の活動が盛り上がり、かつ、データがたくさん集まり、改良のスピードアップも狙えます。是非、入会をよろしく願いいたします。協議会についてのお問い合わせもお待ちしています。

★産肉検定・豚人工授精師資格取得等について

産肉肉質改良のための素材となるデータ測定についても、積極的に実施をお願いしたいところですが測定機器が無いなどのお悩みについて、協議会一丸となって取り組んで行きたいと思います。また、最近非常に問合せが増えております、豚人工授精師資格取得や人工授精の講習会等、皆さんで情報交換を行いたいと思います。是非、事務局へお問い合わせ下さい。全体で対策を検討したいと思います。

★国産純粋種豚改良協議会だより について

普段なかなか集まることのできない、会員及びオブザーバーの交流の場としても是非ご活用ください。掲載希望記事や掲載希望コーナーなどの御提案をお待ちしています。事務局までどんどんお寄せ下さい。また、改良に関する質問なども受け付けております。

(例:会員及びオブザーバーの紹介コーナー、会員及びオブザーバーに関するトピックコーナーなど)

【事務局つれづれ】

日本のソウルフードと言っても過言ではない『ラーメン』。海外に行ってもめったに日本食が恋しくならない私でも、あのスープの香りが漂ってくると無性に食べたくなります。しかし、発祥の地である中国やお隣の韓国では「味が濃すぎる(しょっぱすぎる)」と、あまり受け入れられていないようです。

中国からやってきて、日本人の嗜好に合うように試行錯誤を重ねてソウルフードとなった『ラーメン』。種豚も似ていると思いませんか?日本独特の豚肉料理に合う『テーブルミート』を生産するために、中国・ヨーロッパや米国からやってきた種豚は生産者の技術をもって改良されてきた、我が国の『遺伝資源』であります。豚肉を加工に使うことが主な国では脂肪交雑の素晴らしい、またその脂も『白い肉』と呼ばれるくらい旨みのある『テーブルミート』は敬遠されることもあるでしょう。しかし、我が国のゆたかな食文化を支え、栄養成分的にも優秀なたんぱく源である我が国の『テーブルミート』。国産純粋種豚はこれをしっかりと支えているのです。

国産純粋種豚は生産者の長年の技術と改良の結晶であり、代替品はありません。これを維持管理することの難しさと重要性を今回の疾病と災害で痛感しました。牛とは違う豚という家畜の特性もとらえつつ、どのように維持管理することが一番適しているか、風土や地域の求める『テーブルミート』の違いという問題も加味しながら、国・都道府県・民間が一体となって検討していくべきかと思えます。

有限会社 木島農場 木島敏昭和さん
令和 2 年度 春の叙勲(旭日双光章) 受章

国産純粋種豚改良協議会設立当初からの会員、富山県黒部市・有限会社木島農場の木島敏昭さんが令和 2 年度 春の叙勲で旭日双光章を受章されました。木島さんは、地元富山県だけでなく、長年にわたって全国組織での活動と養豚振興と発展に御貢献御尽力され、現在も精力的に国産純粋種豚の維持改良に努められておられます。

新型コロナウィルスの感染拡大がおさまらず、今回は書面でのインタビューとなってしまいましたが、木島さんに受章についてほか日本の養豚の現状についてもお聞きしてみました!!



木島敏昭さんと幸子夫人

(写真は ALIC 畜産の情報よりお借りしました)

※下記サイトもお勧めです!!(事務局独断)

<http://www.kurobehan.com/kouza/guide04/>

<http://www.kurobehan.com/kouza/tatujin/tatujin04-02.html>

祝 木島敏昭さん 旭日双光章 受章

令和 2 年 4 月

農場概要

基本情報

農場名	有限会社 木島農場
母豚数	95 頭
従業員数	家族 3 人
飼養品種	ランドレース種、大ヨークシャー種、デュロック種 F1(LW)

農場の年表

昭和 25 年	父が分家 豚を飼い始める。
昭和 37 年	父が家畜人工授精所を開設。
昭和 43 年	自身が高校を卒業。同時に経営に参加（二代目）。 母豚 20 頭 水稻 2 h a
昭和 44 年	家畜人工授精師の免許を取得。
昭和 46 年	日本種豚登録協会 種雌指定種豚場 認定。
昭和 49 年	農場を移転し、一貫経営を開始。
昭和 59 年	第 10 回全国種豚共進会へ出品
※平成 2 年	農林水産大臣賞受賞（種豚）
平成 9・13・18・20・23・30 年	農林水産大臣賞受賞（肉豚）
平成 31 年	次男が経営に参加。

現在に至る



右から木島敏昭さん、奥様の幸子さん、次男の裕二さん

受賞おめでとうございます！！

木島敏昭さんに突撃インタビュー



●叙勲について

Q1 叙勲おめでとうございます。今のお気持ちをお聞かせください

普通に仕事をしていてありがたいことであり、また関わって頂いた全ての皆さんに感謝です。

Q2 どういったきっかけで叙勲に至ったのでしょうか

富山県養豚組合連合会の役員を24年間と、全国養豚協会（現在の一般社団法人日本養豚協会）の役員を9期務めさせて頂いたことがきっかけではないかと思っています。

●木島さんについて

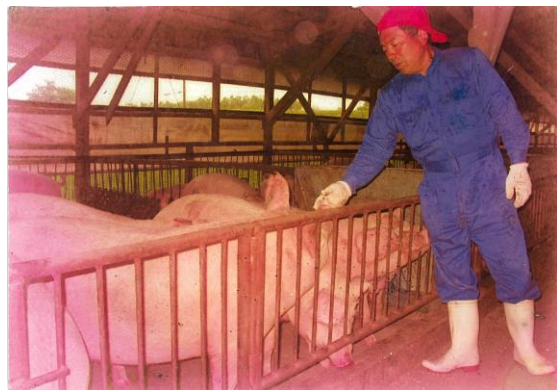
Q3 そもそも養豚を始めたきっかけを教えてください

昭和43年の高校卒業時に種豚農場に研修に行ったことです。この年は第6回全国種豚共進会が行われた年であり、メキシコシティーオリンピック・米国大統領選挙の年でもありました。

Q4 富山県で養豚（種豚生産）を行うメリット・デメリットがあれば教えてください

顔の見える豚肉生産が可能ということですね。

種豚生産は、自身が飼養する種豚の質・能力を落とさないためにも種豚の登録が必要だと考えます。つまり、豚をよく観察することです。（現在の大規模経営者やその後継者と呼ばれる方々は自身が飼養している豚の体型をじっくり観察し、本当に理解していらっしゃるのか、と疑問に感じています。）



よりよい種豚生産は、豚をよく観察することが基本

●種豚生産について

Q5 種豚生産でもっとも気を付けていることはなんですか？

血液の更新、改良（一般外貌）です。

脚蹄及び乳頭数（左右 7 個以上）等、繁殖豚としての資質をみて選抜・改良しています。



若かりし日の木島さん

Q6 これまでで一番優秀だと思った種豚は何でしょうか

40 年前、直接検定に出した豚で飼料要求率が 2.43Kg という成績の個体がありました。当時、ランドレース種で体長が長い個体だと 2m、体高 96cm、管囲 27cm くらいでした。

Q7 木島さんの思う「美味しい」種豚の体型について教えてください

すべての品種の体型は、種豚登録審査基準に基づくと思います。

種豚登録審査基準は、肉のつき方の基本中の基本ではないでしょうか。

Q8 枝肉や取引先での評価について、種豚(母豚や止め雄)の影響はどのくらいありますか

すべてに影響すると思います！！

Q9 種豚生産の楽しさ、難しさはどんな時に感じますか？

楽しいところは、自分好みの種豚や枝肉生産が可能である点です。

Q10 ユーザー(お客さん)の求める種豚が変わってきていると感じることはありますか

富山県は豚肉の移入県(消費県)であり、高齢化も進み廃業などでユーザーは正直減少しています。現在は、主に自場のための改良を行っています。

Q11 種豚生産のうえで、「ライバル」と感じる方はいますか？

「ライバル」ではなく、「すごい!!」と思うのは、
株式会社山田 B.F の山田芳男さん
農事組合法人富士農場サービスの桑原康さん
の、お二人です。

二人とも日本の種豚産業において、なくてはならない存在です。



日本の種豚生産を支える
仲間たち

Q12 日本で種豚を生産する意義について、お考え

を聞かせてください

日本の消費者ニーズに合った豚肉生産に、日本の種豚は必要不可欠です!!

これからは、豚肉であれば何もこだわらない消費者と、肉質や味にこだわる生産者の二極化が進むと考えています。

Q13 いわゆる高性能母豚に対して、日本の種豚をアピールするには何が必要でしょうか

そもそも、そういった母豚を導入している大規模経営者が、日本の種豚(雌)を導入するかどうか自体が疑問です。

Q14 木島種豚場の今後の展望を教えてください

種豚の能力向上と維持を図りつつ、生産している銘柄豚の商標登録『黒部名水の匠』『名水白雪』を活用しながら地元に根差した経営を目指したいと思っています。

環境問題について家畜排泄物を水用還元するには種豚 1 頭/10a であり、水田単作地帯で畑作がほとんどない富山県では、飼養規模としては 150~200 頭 (15ha~20ha) が限度ではないかと考えています。

Q15 富山県以外で木島さんの生産されたお肉を食べられるところがありますか？

残念ながら現在、県外での販売及び食べることができる店舗は無いと思います。

ちなみに出荷頭数の 1/3 が県価格（手取り）の 35 円/kg、 週 2 頭が 100 円/kgで取引しています。

注目 1

『築城 3 年落城 1 日。ブランドは手を緩めたら、あっという間に地に落ちてしまう。』

●日本の養豚について

Q16 日本の養豚の現状について、お考えを教えてください

スケールメリットを求めて海外ハイブリッドを使った大規模経営と、こだわりの銘柄豚生産及びそれを使った加工品まで携わる経営の二分化状態になっていると思います。

Q17 豚熱・アフリカ豚熱などの海外悪性伝染病の脅威に対して、何が必要でしょうか

豚は移動禁止にすることができますが、野生動物では不可能です。国全体の水際対策(罰則の強化)を望みます。

また、生産現場では、地域の特性、風土にも合致した衛生管理の強化を行っていくことが大事ではないでしょうか。

Q18 これからの日本の養豚に必要なものとはなんでしょうか

まずは、官公庁機関が造成維持している系統豚の有効利用(民間との種豚交流など)。そして、グローバル化の中で発生した今回の新型コロナ感染拡大において露見した、自国ファーストの農産物の問題から食料自給率の重要性を感じました。

飼料用米を活用した豚肉(ライスポーク)の実現は、飼料用米価格が高すぎて不可能でしょうか?? トウモロコシを主たる飼料として給与している豚肉(コーンポーク)、欧州の大麦が主たる飼料の豚肉(バーリィポーク)生産に対して、米を主たる飼料として育て豚肉生産を行っていく体制が構築できればと思います。

注目 2

『“種豚”ではなく、単なる“繁殖豚”になってしまふのでは…』という危機感。種豚登録への理解醸成を！

Q18 豚の登記登録の必要性について御意見をお願いします

現在活躍中の大規模経営者が第一線を退く頃には、種豚の体型、資質等の意味と重要性が理解できない生産者が多数となり、『種豚』ではなく単なる『繁殖豚』になってしまわないでしょうか。

『種豚』の見方、例えば「肢の繋ぎ」、「肩の付着」、「体の移行」等、種豚登録とはどういうことなのか、もっと理解を深めて頂きたいです。

Q18 カナダ産などの評価が高いなか、輸入豚肉に負けない取組などがあれば教えてください

輸出産業としての養豚生産と、国内消費を重視している生産業界との差別化を国も絡めて検討、対応していくことが必要だと思います。

また、地域に根差したブランド化と顔の見える豚肉生産、さらには豚肉移出県（生産県）による国産豚肉のPRがもっと必要だと思います。

Q19 全国の生産者、特に中小規模の生産者に一言をお願いします

中小経営ならではの地域に根差した豚肉生産、また自場に適した種豚の確保と生産者同士の交流を活発化させると共に、経営者として技術者としての向上を目指しましょう!!



富山県黒部市にある木島さんの農場

注目3

養豚とは

- ①夢を見ることができる
 - ②世界が解る
 - ③自分の時間が作れる
- 素晴らしい仕事！



Q20 最後に木島さんにとって「養豚業」とはなんでしょうか

- ① 夢を見ることができる仕事
- ② 世界が解る仕事
- ③ 自分の時間が作れる仕事

お忙しいなか、ご回答ありがとうございました！

【事務局より】

「次は手作りハムに挑戦する。」と受章後も変わらず、意欲的に6次化産業を目指す木島さん。また、国内で発生が続いている豚熱についても県の生産者、家畜保健衛生所等官民一丸となって対策しています。（富山県での生産農家での発生は現在ありません。）

意欲あふれチャレンジし続ける木島さんは、私達、国産純粋種豚改良協議会の輝く力があります。

この度は受章本当におめでとうございました。